

「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部1年 末益夏花

① 学習成果

今回のプログラムを通してリスニング力が特に伸びたと感じる。プログラム参加前は、第二外国語で中国語を選択し1年学んだが、実際に中国語を使う機会がほとんどなかったためほとんど会話はできないレベルであった。京大での授業では文法を中心に習い文字を目で見えて理解することが多かったのに対し、浙江大学での授業では中国語で授業が行われるため耳をよく使った。同じクラスの他国からの留学生は漢字を使わない文化圏出身であるが、リスニングとスピーキングの能力が私よりもはるかに長けていた。このことから、言語は音を基礎とするのだから耳を積極的に使う学習方法が効果的であることに気づいた。今後の自主学習でもリスニングを積極的に取り入れていきたいと思う。また、実際に現地に行くと看板や案内文、アナウンス、店員の接客など当たり前だが中国語に触れ続けることができる。滞在中は目や耳に飛び込んでくる中国語を少しでも理解したいと思い、授業以外でも気になったことを調べるなど、日本で学ぶよりも意欲的に学習できたと感じる。今後の中国語学習では積極的にリスニングを取り入れていきたいと思う。

② 海外での経験

実際に行ってみて中国は日本と比べてはるかにスケールの大きな国であることを実感した。建物の大きさも人や車の多さも観光地間の距離の遠さも日本とは大きく異なった。慣れない土地での移動は不安であったが、中国ではネット環境やアプリケーションが急速に発達しており、乗り換え案内や地図のアプリを使って日本と同じように、交通機関を使って移動することができ便利であった。2週間という短い期間にも異文化に触れる経験がたくさんでき、中国に対するイメージが変わった部分もある。また、同じクラスや、同じ留学生寮に住む留学生達と交流し、2週間の間に様々な国籍の友人が増えた。彼らとは一緒に食事をしたり、卓球をしたりと親しく過ごし、出発の日には見送りまでしてくれた。留学生同士の交流によって中国以外の様々な文化にも触れることができ、価値ある2週間を過ごせたと思う。

③ プログラム内容

主に平日の午前に授業があり、他の留学生達と一緒に、細かくレベル分けされたクラスでリスニング、リーディング、スピーキングの授業を受けた。平日の午後は学生ボランティアの方々に観光地に連れて行ってもらったり、自由時間に杭州の街を歩いたり留学生の友達と食事をしたりした。週末は自由行動であり、私は友人達と上海に行った。この時もボランティアの方がチケット手配から当日の案内まで親切に助けてくださり、とても感謝している。教科書にも載っている豫園や外灘を訪れ、観光も存分に満喫できた。

④ 進路への影響

中国語は話者が多い言語であるから、今後も役に立つことは間違いないと思う。今回の留学で効果的に学習を進めるためのヒントが見つかった。また、実際に中国語を使う経験をして、もっと流暢に話せるようになりたいとモチベーションが上がった。隣国である中国は今後も日本と政治面・経済面において密に関わっていくだろう。中国語を使えるということは大きなアドバンテージになると思うので、ビジネスで使えるレベルまで到達できるよう、今後も学習に励んでいきたい。具体的目標としては、今年 HSK に挑戦してみようと思う。